

仙台市市民センター事業評価報告書（案）

I 評価の目的

「仙台市市民センター事業の評価のあり方について（答申）」（平成25年5月31日仙台市公民館運営審議会）に基づき、評価の目的は次のとおりである。

- ① 「施設理念と運営方針」に掲げる社会教育施設としての機能や役割を的確に見きわめ、それらが十分發揮されているかどうか、実態を明らかにすること
- ② 担当職員や行政組織とは異なる立場から事業の良い点や問題点を明らかにし、併せて改善策を提示すること
- ③ 事業を実施した館だけでなく、各館に共通する課題の解決方向を示すことによって、多くの職員のふり返りを促し、よりよい市民センターのあり方を示唆すること

II 評価の実施

1 評価の基本的方針

- ① 「施設理念と運営方針」に掲げる役割・機能のうち、特定の機能に焦点を当てた評価とする（評価テーマの設定）。
- ② 市民参画型の市民センターの事業を評価対象事業とする。
- ③ 評価の視点等をあらかじめ設定するとともに、評価シートを作成し、それに基づき評価を行う。

2 評価テーマ及び評価の視点

(1) 評価テーマ（資料2：「事業評価シート」参照）

「施設理念と運営方針」に掲げる「地区館（地区市民センター）の基本的な役割」を評価テーマとし、各評価対象事業の内容に応じて、地区市民センターの5つの機能【地域住民本位の生涯学習拠点機能】【地域の交流・拠点機能】【地域のコミュニティづくり機能】【地域のコーディネート機能】【地域の情報ステーション機能】に掲げられている12の役割を基本として、最も該当する役割2点に着目して評価することとする。

(2) 評価の視点（資料2：「事業評価シート」参照）

評価テーマについて、次のとおり評価の視点を定めて評価する。

I 事業目的・目標の設定について

- ① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ、適切なものであったか。

II 事業プロセスについて

- ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。
- ② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。
- ③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

III 事業成果について

- ① 事業の目的・目標が果たされているか。
- ② 期待した事業効果が生じたか。
- ③ 社会的波及効果が期待できるか。

3 評価対象事業について

(1) 対象事業

事業評価の対象事業は次のとおり。

- | | |
|----------------------|----------|
| ○市民企画会議「女性のための講座企画会」 | 黒松市民センター |
| ○「富沢アクティブエイジングサロン」 | 富沢市民センター |

(2) 対象事業の選定理由

- ① 本審議会では、平成23年度事業の試行的評価も含め、平成25年度までは各区拠点館の「参画」事業を評価対象とし、平成26年度は、震災を踏まえた復興関連事業や防災・減災関係事業に取り組んできた地区市民センターの事業（指定管理者が実施）を評価対象とした。今期は、地区市民センターが取り組んでいる市民参画型の事業の中から、必須事業として全ての地区市民センターが実施している「市民企画会議」と、指定管理者が長期的な視点で人づくりに取り組んでいる「複数年事業」から選定することとした。
- ② 対象の地区市民センター事業については、地下鉄南北線に隣接し、地下鉄開業後急速に人口が増加し、利便性の良さから地区外からの利用が多いという共通点があるものの、昭和47年開館し、団地の発展とともに事業を行ってきた黒松市民センターと、急速な宅地化の真っただ中にあり、高層マンションと昔ながらの農地が共存した地域にある富沢市民センターの2館において実施している事業の中から、事業内容、関係者へのヒアリングや事業視察の可能性等の状況を考慮して評価対象事業を選定した。

(3) 対象事業の概要

資料3：「事業計画概要書」のとおり

4 評価の方法

(1) 資料等による事業内容の把握

対象事業に関する資料や職員からの説明により、事業内容や成果等を把握

(2) 事業関係者等へのヒアリング及び事業（講座）視察の実施

○黒松市民センター 佐藤会長、阿部委員、島倉委員、菅井委員、渡辺委員
齊藤副会長、市瀬委員、幾世橋委員、小地沢委員、鈴木委員、
中山委員、吉田委員

○富沢市民センター 佐藤会長、齊藤副会長、市瀬委員、小岩委員、齊藤委員、
島倉委員、菅井委員、渡辺委員

(3) 評価テーマ及び評価の視点を記載した評価シートにより評価を実施し、評価シートを作成する。

(4) 評価結果等を報告書として取りまとめる。

5 評価のフィードバック等

(1) 評価結果を全市民センターに周知し、今後の市民センター事業の企画立案、事業実施等

の参考とする。

(2) 対象事業を実施した市民センターにおいては、今後の事業の改善に向け、具体的な対応を検討する。

6 評価経過

- 平成 28 年 1 月 28 日 定例会 評価対象事業・方法の検討
- 平成 28 年 3 月 24 日 定例会 評価対象事業・方法の検討
- 平成 28 年 5 月 26 日 定例会 評価対象事業・方法の決定
評価対象事業の内容・成果の把握
- 平成 28 年 6 月 29 日 事業視察及び事業参加者へのヒアリングを実施
(黒松市民センター)
- 平成 28 年 7 月 6 日 事業視察及び事業参加者へのヒアリングを実施
(黒松市民センター)
- 平成 28 年 7 月 28 日 定例会 職員へのヒアリングを実施 (黒松市民センター)
事業評価についての意見交換
- 平成 28 年 8 月 27 日 定例会 事業視察、事業参加者及び職員へのヒアリングを実施
(富沢市民センター)
- 平成 28 年 9 月 1 日 臨時会 事業評価についての意見交換
- 平成 28 年 11 月 10 日 定例会 事業評価報告書 (案) についての検討
- 平成 29 年 1 月 26 日 定例会 事業評価報告書 (案) についての検討

III 評価の結果

1 各事業の評価

(1) 市民企画会議「女性のための講座企画会」(黒松市民センター)

<評価できる点>

【事業の目標・目的の設定】

- ・高齢化によるシニア単身女性の増加や、子育てで孤独感を感じている若いママの存在など、地域が抱える課題を把握している。
- ・「女性が地域活動に参画できる市民力を醸成する」という設定は、地域づくりに女性の視点を入れ、籠もりがちな 50~60 代を地域に取り込むという課題に向き合う人材育成につながり、地域の課題に即している。
- ・黒松地区では女性たちを中心とした地域活動が盛んであるが、その活動に十分に取り込めていない層があることに課題意識を持ち、「女性たちのネットワークづくりを促進すること」を目指していることには好感が持てる。
- ・前年度からの地域の現状や課題をふまえつつ、職員が普段から情報として収集している地域のニーズや課題と、企画員が普段の生活の中から住民目線で感じる地域ニーズや課題に基づいた企画を立案しており、適切に目標設定がされている。

【事業プロセスについて】

- ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。

- ・企画員が、子育てに悩み一人でいる女性や一人暮らしの高齢者など、引きこもりがちな住民を自宅から出られるような楽しい企画にしたいという思いを共有している。
- ・企画員の会話の中から、女性の社会参画、高齢者の引きこもり防止、世代間交流および地域間交流を意識している発言（自分の地域以外の人たちとの交流ができる、既存地域団体以外との交流ができる等）があり、参加者間で目的が共有できていると考えられる。
- ・「女性のための講座企画会」は多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を提供しており、市民センターを拠点とした交流目的に沿ったものになっている。

② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。

- ・まずは自分たちが「楽しい!」「やってみたい!」と思うことを企画・アピールし、地域の人に興味を持ってもらい、巻き込みたいという手法には好感が持てる。
- ・自分たちが企画したことをさらにいいものにしていきたいという思いがあり、次の企画を子育て世代も参加できるよう、曜日を再考するなど企画力がついてきている。
- ・昨年度の講座運営の中で企画員同士の交流が深まり、継続している企画員数、および新規で参画した企画員数を考慮すると、事業に参画しやすい手法となっているといえる。
- ・フラダンス、料理、リースづくりなど、女性が期待する内容で、なおかつ気軽に参画できる事業内容・手法となっている。

③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

- ・職員が企画員を見守り、気軽に話が出来るような場の雰囲気づくりが良かった。
- ・女性同士がおしゃべりを楽しむような雰囲気から色々なアイディアが出ている中で、講座名称を検討する際など、職員が議論を整理・誘導する場面があった。要所要所で議論が空中戦にならないように職員がサポート役として情報をまとめ、物事をしっかりと決めることができている。
- ・中堅職員と新人による2人体制で本事業に取り組んでいる。館長も職員に対してのびのびとできるような声掛けを行っており、センター内の支援体制も充実している。

【事業成果について】

① 事業の目的・目標が果たされているか。

- ・地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努めるという目標は達成されている。
- ・多様な地域住民が気軽に集い楽しく交流する場と機会を、女性の視点とつながりを生かして提供できている。
- ・企画された事業の参加者の声から、個人的に抱える課題（被災経験や孤立化）などの解消につながっていることがわかる。

② 期待した事業効果が生じたか。

- ・企画員の間で、活動がないときでも個人間の交流が生まれている。
- ・1年目は公募した企画員による体験型講座が実施できたこと、および体験型講座に多くの参加者があったことが成果であるといえる。また現在進行している2年目の企画にも、昨年度の講座参加者が企画員として参加するなど、事業の主体となる人材が発掘できていることが成果であるといえる。
- ・1年目を振り返り、2年目に活かそうとする意識をメンバーは持っており、参加者層を拡大し、楽しんでもらうことで参加しやすい場を作ろうとしていて、企画員の主体性も高まっている。

③ 社会的波及効果が期待できるか。

- ・多くの団体に関わっている方が企画員に多いので波及効果やネットワークは取りやすいと考える。
- ・企画員同士の今後のつながりも注目したい。

＜改善に向けた提案等＞

【事業の目的・目標の設定】

- ・フラダンスや料理教室のような一見カルチャー的に見える団体やサークルの活動においても、しっかりと企画の意義付けを行えば、単なるカルチャー的な講座から、地域課題をテーマにした講座になる。地域課題や課題解決を意識しつつも、それを押し付けすぎると現状の楽しい雰囲気が損なわれることを考慮しつつ、中長期的な視点で職員と企画員（全員でなくとも1～2人でも）がともに地域課題をどう問題化、共有化していくかの方法（ロードマップづくりなど）を検討する必要がある。
- ・企画の実施は出会いやきっかけを見いだす手段と捉え、3年目を迎えるに当たって、2年間のPDCA、特に地域課題に照らし合わせて分析する機会を持つと良い。
- ・内容が楽しいのは良いとして、引きこもりがちな女性たちが実際に興味を持つテーマになっているか疑問である。地域のみなさんに幅広くアンケートやヒアリングなどを行い、講座にフィードバックしてみてはどうか。
- ・「地域の課題を踏まえた上で女性たちが地域課題に向き合い解決する講座」であるが、気軽に集い、楽しく交流できる場の設定と、個人的課題に向き合うこと、あるいは、地域課題に向き合い解決することの間には乖離があり、それらをつなげていく方法を考えていく必要がある。

【事業プロセスについて】

- ・企画会議は昼間に限定されており、時間的に参加出来る人が限られる。別の時間帯での開催も検討していくと、子育て世代や勤労世代など参加層も拡大し幅広い意見も出てくるのではないか。
- ・企画員について、事前に声掛けをした人や、以前から市民センターを利用している方々に留まらず、今後若い人や中間層も参加できるような工夫が必要である。
- ・世代間のギャップをコミュニケーションの力で埋めることも重要。黒松エリアの若いお母さんたちが事業に参画して積極的に盛り上げていくと、長いスパンでみて風土も変わってくる。先輩（お年寄り）が新米ママをサポートするなど、みんなが活躍できる場、出番を作っていくけば、それが外に出でいくことにつながる。
- ・1年目の体験型講座の参加者は60～70代の女性が多かったことの反省を受け、2年目は50～60代の取込みを目標に定めて講座の企画を議論したが、企画員が3回にわたってブレインストーミング手法により意見出しを行ったため、アイディアが発散てしまい、当初の目標に沿った議論が十分に行われたとはいえない。50～60代の関心事を掘り起す作業をヒアリングなどにより行い、このことを受けたテーマ設定や日程設定が行われるようセンター職員が助言すべきである。
- ・企画員が3回にわたって体験型講座のテーマ設定のみを議論することで企画づくりが終わってしまったのが残念である。講師選定の上での条件決め、広報の方法の開発など、企画づくりの肝心の部分にたどり着いておらず、企画員にとっても拍子抜けした様子がうかがえたことが課題である。センター側の計らいで、4回目の議論の機会が設けられたことはよかったです、3回で企画づくりをどのようにまとめあげるかの視点がセンター側に欠けていたように思われる。
- ・企画員がもっと関わろうとする意欲が窺えた部分（講師選定など）があり、そこが更なる参画へと進むポイントであるという認識が職員に不足していたように思えた。「参加」から「参画」へと変わるターニングポイントを見逃さず、適切な関わり方をしていくことが重要である。

- ・当初の目標が検討手法の稚拙さによって果たされない可能性があることは非常にもったいなく、センター職員の企画づくりの技術向上が期待される。
- ・「参画」の段階は、市民センター主導で「意思決定に企画員が参画」という印象が強い。その先にある「企画員主体の活動」そして「企画員主体の活動に市民センターを巻き込む」レベルをイメージしてファシリテートすると、更に進行役職員の持ち味が活かされる。
- ・2名の職員が役割分担して、「会議を見える化」できていくともっと良い場になる。司会・進行のサポート役と、ホワイトボード等での記録サポート役などを職員が最初は実践し、すこしづつ企画員にノウハウを移行していくとよい。

【事業成果について】

- ・本市民センターの他の事業を繋げ、全体像を職員同士が共有し、成果と課題を整理すると次に目指すものが見えてきそうである。全体を繋げることで、地域の人材も新たな視点で見えてくるのではないか。
- ・事業の「社会的波及効果」は、市民企画員と講座参加者が企画に参加したあとで、そのネットワークがどう生かされたのかを見ないとわからない。企画の終了後もモニタリングを続ける必要がある。

【その他】

- ・「女性のための企画講座」は、3か年事業の段階を追った目標が設定されていないため、何をもって目標を果たしたか、評価し得ない。
- ・事業の目的・目標が果たされているかの評価は、評価基準がはっきりしないので難しい。
- ・事業効果・成果の指標を設定するにあたり、講座実施数や参加者数に加え、中長期的な指標として「企画員の自立」に関する指標があるとよい。
- ・市民企画会議を継続することで、現在の企画員が地域の中で活躍したり、さらに多様なターゲットが主体となった市民企画会議の開催にもつなげることができる。好循環が回り始めた途上にあるので、センター職員の異動があった場合でも事業の継続性が担保されるようなフレームづくりが生涯学習支援センターに求められる。
- ・市民参画の推進と市民活動の育成・支援という点でいえば、現行の市民センター事業が終了すると、団体運営のノウハウがない企画員が継続して地域課題に取り組むことが難しい。職員が研修の一環として、資金調達、情報発信等の市民活動・NPOセンターと連携して団体運営のノウハウを習得する機会（仙台市市民活動サポートセンターの「NPO いろは塾」、みやぎ NPO プラザの「NPO 夜学」など）をつくり、企画員の「自立」を見据えた職員のサポートが求められる。
- ・まちづくり、絆づくりは時間のかかるものなのでじっくり行う必要がある。最終的には、女性の活性化にあわせて地域づくりや防災、次世代を担う子供たちの見守りなどに広がるように方向性を持ってほしい。
- ・担当の職員は、できるだけ企画員の意見を重視して、うまくファシリテーションされていたが、すべての職員がこのようにできるのだろうかと不安も残る。
- ・市民センター職員はコーディネーターとしてのスキルアップが必要である。
- ・「地域の課題を踏まえた上で地域課題に向き合い解決する講座」としては、まず、楽しく交流のできる場と機会の提供を行い、次に、ネットワークの中で、被災経験や孤立など個人的な課題や家庭的な問題の一端が解消される段階に、さらに、防犯、孤立、虐待など多様な課題を抱える地域に向け働きかけを行っていくという段階が考えられるが、この3つのプロセスにはかなり距離があり、地域課題

を掘り下げる社会的な波及効果も得られるような活動へ発展させるには、ステップを踏んだ働きかけが必要なのではないか。

(2) 「富沢アクティブライジングサロン」(富沢市民センター)

<評価できる点>

【事業の目的・目標の設定】

- ・「地域における旧住民と新住民の交流が課題」との認識があり、その課題解決のために考えられたプログラムとなっており、目的・目標の設定は適切である。
- ・超高齢社会の現在、社会問題の一つとして、お年寄りの孤立を防ぐことは重要であり、仲間づくりのきっかけとしても良い企画である。
- ・事業計画概要書（資料3）の事業目的「地域のシニア世代の交流」については適切と考えるが、「地域リーダーとなる人材の発掘・育成」については、「地域活動デビュー」を果たしたばかりのメンバーからなるこの事業に関連づけることは、少し難しかったかもしれない。

【事業プロセスについて】

① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。

- ・参加しているメンバー同士は自主的・積極的に活動し、皆同じ方向を向いているように感じられた。

② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。

- ・最初は皆でやっていたが、3年目からメンバーひとり一人がそれぞれ責任者として事業の企画運営をしているというように、段階を踏んで無理なくやれる工夫がなされている。
- ・昨年度、一昨年度より継続参加しているメンバーが多いので、この間にメンバーがそれぞれの個性・特性を理解できるような人間関係が作られてきた。事業の各場面において、各自の得意分野を生かせる様子も見られ、そのことがメンバーの実質的な参画につながっているように思われる。
- ・市民センターの館長がメンバーの反省会に参加したこと、市民センター側の思いが参加者に伝わる機会となっている。
- ・メンバーが主体的に活動を行っている。また連携して取り組む姿勢も多々見られた。

③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

- ・メンバーの生きがいを見つけられるような企画運営がなされており、館長、職員がメンバーの不安要素を解消するなど心理的にもサポートしており、市民センターの支援や働きかけは十分行われている。
- ・「センターが、職員が（本事業を）育てくれた」というメンバーの言葉があり、この事業に対する市民センターの職員の関わり方は良い意味で積極的である。
- ・担当職員は今年の異動により新たに担当になったが、丁寧な引き継ぎがなされたことで事業の方向性を十分に理解できていた。
- ・「市民センターに集まって、企画を考え職員の方と過ごす時間が楽しい」というメンバーの意見もあったことから、メンバーと職員とのコミュニケーションが出来上がっており、とてもよい雰囲気が作られていた。
- ・職員が縁の下の力持ちとして、実践的にも心理的にもサポートしている。

【事業成果について】

① 事業の目的・目標が果たされているか。

- ・当初は、参加ではなく参画という手法に戸惑いを覚えたメンバーが、「ただ参加するだけに止まらず、自分たちでアイディアを出すことが楽しい」と考えるに至り、事業のさまざまな場面において、「責任者」という形でリーダーシップを発揮できるようになっており、事業目標はおおむね達成できているように思われる。

② 期待した事業効果が生じたか。

- ・自主的に企画・立案するということはかなり達成され、事業効果は出ている。今後は企画した事業に参加した人々が、メンバーに加わるようになるとさらに素晴らしい。
- ・メンバーが自主的・積極的で、かつ和気あいあいで互いに尊重しあい心を開いている。連携して取り組む姿勢も見られ、4年間にわたる成果であると言える。
- ・講座が3年で終了するとなかなか続かない傾向がある中で、4年目も市民センター事業として取り組んでいる。参画も段階があることから、積み重ねていくことで、市民協働による地域課題解決に取り組める形が見えてくる可能性が高い。

③ 社会的波及効果が期待できるか。

- ・期待する事業効果（資料3 P. 5）として地域リーダーの技の修得はあるが、メンバー間でもお互いの意見を聞き、活発な発想が交わされていたので、近い将来、ひとり一人が市民センターで学んだスキルを活かして活躍することを期待したい。
- ・館長が企画会等に顔を出す、担当者が変わっても引き継ぎが滞らないなど、市民センター全体で施設理念と運営方針を大事にしており、利用者との顔の見える関係づくりを丁寧に行い、信頼感を高めている。

<改善に向けた提案>

【事業の目標・目的の設定】

- ・「富沢アクティブエイジングサロン」は、市民参画、市民の活動の育成・支援事業としては適切であるが、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーの育成事業としては改善が必要である。
- ・事業の目的・目標の全てが共有されているとはいがたい。センターの真の狙いと参画しているメンバーの目標が一致するような仕掛けがほしい。
- ・複数年かけてのシニア世代の交流事業としての目的は果たされているが、自立し各地域に戻って地域リーダーとして活動するという声がなかったこと、市民センターの支援を受けながら自分たちができることをやつてきたいという意見が多くなったことなどから、企画運営を学ぶ場・地域リーダーの育成につなげるには次の段階での工夫が必要である。
- ・メンバーの中には自分の地元を離れた市民センターでの活動だからいいという方もいて、この事業の目標である「地域のリーダーの育成」に導く企画が必要と感じた。たとえば、「富沢にある様々な施設、児童館、学校などで活動する」、「地域で活動している人たちの現場訪問または講話で学ぶ」や、「地域リーダーとしての企画運営のスキルを学ぶ」などが考えられる。
- ・地域との関係がうまくいけば、社会的波及効果も上がると思うので、この事業は最終的に地域との関係がキーポイントになる。市民センターが積極的に地域との関係構築に働きかけることが大切である。

【事業プロセスについて】

- ・誰でもがこのプログラムに参画できるかと考えると、消極的・受け身的な人には難しいのではないか。特に企画段階では積極性が求められる。ただし、このメンバーに入ると積極的にならざるを得ないと考えると、このメンバーに入ることがまず参画の第一歩となるだろう。メンバーが企画した事業を通して一般の人々に訴えて、メンバーに加入するようアピールすることが大切と思う。
- ・新規のメンバーが加入していない点が気になる。人数が多くなりすぎると「参加の輪」が拡散し、責任の所在が不明確になる等の弊害もあるが、固定的な関係性はメンバーにとって居心地が良い反面、外部に閉鎖的な印象を与えることもある。こうした点について、職員だけでなく参加者自身がどう考えるかが課題となる。
- ・講座に参加する人たちの動機をしっかりとつかむことも大切である。

【事業成果について】

- ・育った人材が活躍できる場所の紹介を、市民センターが行っていく必要があるのではないか。
- ・サロン活動については十分な支援があるが、「地域における旧住民と新住民の交流コーディネート」という課題の解決を目的とした活動にするためには、市民センターがサロンのリーダーと地域を結びつける仲立ちとなることが必要で、メンバーと地域代表などとの継続的な交流を図る懇談会が必要と考える。市民センターが積極的に地域との関係構築を働きかけることが大切である。
- ・市民センターのある地域と離れた地域から参加している人がいることは、評価を複雑にしている。広い範囲から来ているということで多くの市民を受け入れていく上では素晴らしい。しかし、地域の人材育成や地域のコミュニティづくりという点では課題ではないか。
- ・「富沢アクティブエイジングサロン」のメンバーは、ほとんどが新住民であり、町内会関係者など旧住民との関係をどのように構築するかが今後の課題と考える。

【その他】

- ・参加しているメンバーは積極的で、市民活動を進める人材育成になっているが、地域のコミュニティづくりに参画し、地域のリーダー的存在として、さまざまな活動を仕掛けていく側になるには、もう少し時間がかかるのではないか。
- ・市民センターでの楽しいサロンから自分たちで築くコミュニティデザインへと、市民センターは後方支援からアクティブサポートをしていく段階と考えられる。
- ・あるメンバーから「自分自身を知られていない地域（で活動すること）の気楽さ」という発言が聞かれた。これまで、市民センターは「居住する地域」での活動、協働の拠点として位置づけられてきた。とりわけ防災、福祉などの生活課題は、この「居住する地域」という文脈において浮上するテーマだといえる。しかし、ボランティアグループ、NPOなど、活動主体が多様化している現実を見ると、「居住してはいないが、活動している」人々の存在を視野に入れながら、市民センターの事業内容を組み立てることも必要なかもしれない。こうした「地域間交流」が地域の活動をより豊かにしていくことは十分ありうる。

2 総合評価・まとめ

(1) 総合評価

以上のように、平成27年度から平成28年度に実施している2つの市民参画事業を対象に評価を行ってきた。

①「女性のための講座企画会」(黒松市民センター)

平成27年度からスタートした「女性のための講座企画会」は、継続参加の企画員、新規で参加した方と市民センター職員とのコミュニケーションが上手く取れており、地域が抱える課題をよく把握していた。女性が楽しめる講座を企画することで、企画員が交流の場の必要性を実感し、さらに活動していきたいという意欲も生まれてきている。

一方、一回の視察、企画員と職員へのヒアリングだけでの評価には限界があるが、講座のこれから展開を考える上では、もう少し工夫が必要ではないかという指摘が多く出された。特に、事業プロセスについて多くの意見が出された。

「引きこもりがちな高齢者や子育て等でなかなか参加できない方達に、どう声掛けして参加を促すか」は、この企画会で共有されている課題である。この課題のアプローチとしては、企画員側も楽しむことを大切にし、高齢者の引きこもり防止、女性の社会参画、世代間交流・地域間交流などについて、どこか頭の中で押さえつつ、場づくりを行っていくことが重要であり、その上で地域の課題を解決していく次のステップをどう考えていくか、そのような問題意識を持つてもらうための工夫が必要である。

また、市民センターからの情報発信のあり方として、たとえば、子育て世代に対しては、児童館や医院などに市民センターのチラシが置いてあれば目にする機会が増え、子育て世代の人達が検診で医院を訪れたときや公園に集まって話をしたときに情報を共有することで、参加のきっかけにもつながる。いつも同じ場所ばかりではなく、色々な場所、機会をとらえて発信していく事が大切であり、どうよう情報発信し、その情報を受ける側がどんな形で受け取っているのかを把握する必要がある。

評価全体に関しては、話し合いの仕方や目標に沿った活動ができており、女性のネットワークづくりにうまく効いているという意見もあれば、そのネットワークづくりにはもう少し踏み込んだ下調べや企画が必要ではないか、といった意見がある。評価軸をどう立てているかという点がこの評価、判断の分かれ目になるタイプの事業だったと思われる。市民が事業を企画する、そして参画するということに対しての事業としてのフレームづくり、目標設定、評価設定のあり方が改めて重要なってくる。それは事業を企画した市民センターや参加した市民の問題だけではなく、生涯学習支援センターとしてそもそもこの事業のフレームをどう位置付けているのか、根本に関わる問題であろう。

②「富沢アクティブエイジングサロン」(富沢市民センター)

平成25年度から継続している「富沢アクティブエイジングサロン」は、事業の目標・目的の設定がうまくできており、職員の支援体制・職員の働きかけについても、色々工夫がなされて、メンバーと市民センター職員の意思の疎通がきちんと図られていた。メンバーの自主性、活動力が向上してきている様子がうかがえる。

一方、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーに関しては、参加した方達が地域リーダーとして自主的に活動するようになるまでにはまだもう少し時間があるいは段階が必要ではないかという意見が多く、もっと仕掛けが必要ではないかという指摘があった。

また、富沢地域、太白区に住んでいない方が参加していることに対しての指摘もあり、地域間交流や参加する人が広がっていくことで、もっと広い視野での地域人材の育成にもつながる期待も感じら

れた。

市民センターに集まっていること自体が楽しいということが非常に感じられる事業であり、メンバーにとってこのような経験が生かせる場所の提供や提案等があれば、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーの育成についての次へのステップアップが可能となる。事業に参加して、企画して一生懸命取り組めばそれで自立できるかというと、そう簡単ではなく、その後もメンバーの自立を促す、支えるためのノウハウの講座や職員のサポートが必要であろう。地域コミュニティのリーダー育成という目標を考えると、あまり長い時間をかけることなく、メンバーが今頑張って参画をしていることを応援しながら早めにネクスト・ステージに導くことが必要であり、この方たちが地域で何らかの活動に関わることになることが大切である。

参加している人達が参加から参画に移行した動きをしていることは一つの成果であるが、参画まで達しても、その後が問題となる。この事業に参加しているメンバーはアグティブであり、話し合いもしっかりとできる。そのような財産を今後、どのように伸ばしていくのか、市民センター側でしっかりとと考えていく必要があろう。

③ 市民参画型の事業について

今回は上記 2 事業以外に実際の事業は視察しなかったが、市民参画型の事業は各市民センターで実施されているところである。

市民参画型の事業はいかに参加者の主体性を引き出すかが重要なポイントであり、今回取り上げた黒松、富沢両市民センターとも参加者への対応を丁寧に行っていた。実際に事業を進める際には、市民センター全体で関わることが大切であり、両センターとも館長と職員がお互いに補完し合い、チームワークを大切にしていた。また、職員のファシリテート力などスキルも高く、市民参画型事業としては着実に成長しており、市民の主体的な活動を支えられるような段階に来ていると思われる。

市民参画型事業の目的として掲げられることの多い「リーダーの育成」については、成人については、その手法について今一度考える必要があろう。リーダー育成は短期間でできるものではなく、段階を踏んだ支援が不可欠である。地域には実際にリーダーとして活動している人、リーダー経験のある人が多くいるはずであり、そういう人たちを見出して、市民センターの活動の場に加わってもらうことも効果的である。大人同士の交流の中で学び合い高めあえる状況を作り出すこと、そこに市民センターの役割があり職員への期待は大きいし、職員の研鑽もさらに必要である。

また、子ども時代から市民センターに関わってもらうことも重要である。市民センターの「子ども参画型事業」に参加した子どもたちがジュニアリーダーになり、大学生、社会人になったら、また市民センターの事業に関わるという事例があり、将来の核になる人材が育っている。子どもが市民センターに関わることで、多世代交流も図られる。

市民参画型事業の大きな目的である「地域課題の解決」については、地域内での連携、ネットワークづくりが重要であるが、地域を超えた広域での連携の効果も指摘したい。コミュニティに「外から見た視点」を入れることで活性化する可能性があるし、広域連携で活躍・活動できる場が広がり、また新たな展開があるかもしれない。

(2) まとめ

① 評価のあり方と実施

今回、評価の対象となった事業について、主に事業評価シートにそって視察・ヒアリングを行い、内容を把握したうえで委員同士の話し合いの中で評価をまとめた。その結果、概ね適切に実施されており、市民の参画による講座の企画を行う事業として重要な取り組みであると判断した。

ただし、事業目標の「地域課題の解決」や「リーダーの育成」を考えると、この事業単体で評価するのは困難であり、事業終了後はどうなったのかまでの検証をどうするかという課題が残る。事業も複数年で行われており、評価する時点での到達度をあらかじめ設定したうえで行うという方法を検討することも必要である。

② 評価の目的

本審議会の評価は、事業の良い点や課題と考えられる点を明らかにし、併せて改善策を提示することにある。それは実際に評価した事業だけではなく、他の市民センターにも共通する課題や解決方向を示唆することになる。

今回、多くの委員から、ファシリテート力を身に付けた職員がさらに地域を深く知り、円熟味を増していくれば、地域の課題を皆で協働して解決していくという取り組みにつながるという期待も述べられた。2つの事業で指摘した課題や提案を受け止め、事業の改善に活かしていただければ幸いである。

③ 事業の発展に向けて

本審議会で市民センター事業の評価を行うのは今回が5回目となる。様々な立場や背景を持つ委員が、市民センターに対する期待を前提としながら、市内60館すべての市民センターの充実につながることを願って評価を実施してきた。これまでの評価が市民センターの取り組みの改善に実際に活かされてきたのかどうか、改めて検証が必要であり、評価の対象となった市民センターからのフィードバックをお願いしたい。

なお、今後の事業評価については、各市民センターが設定した館の施設・運営理念に即した事業を展開できているかどうかという各館の事業全体にわたるものや、生涯学習支援センターが各市民センターに課している必須事業（高齢者事業、青少年育成事業など）を重点的に取り上げて評価していくことも考えられる。さらには、本審議会での評価のあり方が、市民の市民センターへの期待によりよく応えていくことができるような評価として適しているかどうかについても継続して見直していく必要があることを付記しておく。

■ 地区館(地区市民センター)事業の評価項目

※「市民センターの施設理念と運営方針」の「地区館(地区市民センター)の基本的な役割」より

地区館(地区市民センター)の役割			内容(成果目標)
1 地域住民本位の生涯学習拠点機能	① 学習ニーズ・地域課題を踏まえた特徴ある事業の実施		地域住民を対象にしたアンケート調査や懇談会、日々の地域情報の収集などを通じて地域住民の学習ニーズと地域課題を把握し、目的を明確にした上で特徴ある事業を実施する。
	② 事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり		事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫(魅力づくり)や参加しやすい条件を整えるよう努める。
	③ 市民参画の推進と市民の活動の育成・支援		市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。 【黒松 市民企画会議「女性のための講座企画会」事業】 【富沢 「富沢アクティブラウンジサロン」事業】
2 地域の交流・拠点機能	① 地域住民の交流の場、及び子どもたちの育成・交流の場の確保		多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の育成・交流の場の確保に配慮する。 【黒松 市民企画会議「女性のための講座企画会」事業】
	② 様々な地域ネットワークの拠点機能=プラットフォームの確保		地域にある様々な団体、NPO、ボランティア組織等が共通の地域課題のもとに集まるネットワークの拠点としての機能(プラットフォーム)が持てるよう努める。
3 地域のコミュニティづくり機能	① コミュニティ意識の醸成		地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わることができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。 片平「クローズアップ片平・映像番組づくり」事業(H26評価)
	② 地域活動を担う人材の育成		地域課題を踏まえ、地域の関係団体やNPO等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。 【富沢 「富沢アクティブラウンジサロン」事業】 七郷「未来への伝言～七郷を語り継ぐ」事業(H26評価) 片平「クローズアップ片平・映像番組づくり」事業(H26評価)
	③ 地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり		地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み(地域住民による地区館ごとの運営協議会等)を創り活かす。
4 地域のコーディネート機能	① 地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援		PTA・町内会・商店街等の各種地域団体、NPOなど地域に関わる団体、学校や区役所等の公共機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。 田子「みんなで学ぶ地域防災」事業(H26評価)
	② 行政機関と地域との仲介・調整の窓口機能の分担		“地域の声”を施策や事業につなげるために、行政機関等と地域の諸団体等との交流拠点施設としての仲介及び調整の窓口機能を担う。
5 地域の情報ステーション機能	① 地域の資源等の保管と公開		地域にある様々な資源(歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等)などに関する情報を多様な媒体に整理・保管し、地域住民が必要に応じて閲覧し活用できる仕組みを整える。
	② 地域情報の収集と提供		地域内の学校や区役所などの公共機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、NPOなどからの活動情報や募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。
震災を踏まえた市民センターの役割と取組			市民センターは、これまで培ってきた地域団体等とのネットワークを活かしながら、人材育成機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、地域の防災体制作りの支援など、地域の防災・減災に資する取組を行うとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図る。さらに、地域の生涯学習の拠点として、防災訓練等も含め、防災・減災に関する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓等を広く発信していくものとする。



事業評価シート

資料2

館名・対象事業 黒松市民センター・市民企画会議 「女性のための講座企画会」

評価テーマ(地区市民センターの基本的な役割・事業のねらい)

地域住民本位の生涯学習拠点機能 〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕	市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。
地域の交流・拠点機能 〔地域住民の交流の場の確保〕	多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのためにの子育て支援と青年の育成・交流の場の確保に配慮する。

評価の視点

評価記入欄

【事業目的・目標の設定について】
 ① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ適切なものであったか。

【事業プロセスについて】

- ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。
- ② 企画が可能となる事業内容・手法などなっているか。
- ③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

【事業成果について】

- ① 事業の目的・目標が実現されているか。
- ② 期待した事業効果が生じたか。
- ③ 社会的波及効果が期待できるか。

*それぞれ箇条書きで記載してください。その際、評価できる点については「○」を、改善に向けた提案の場合は「△」を冒頭に付けてください。
上記項目に該当しない事項についてご記入ください。

事業評価シート

館名・対象事業	雪沢市民センター・「喜沢アクティビティブエイジングサロン」			
評価テーマ（地区市民センターの基本的な役割・事業のねらい）				
地域住民本位の生涯学習拠点機能 〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕	市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進することも、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。			
地域のコミュニケーション機能 〔地域活動を担う人材の育成〕	地域課題を踏まえ、地域の関係団体やNPO等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。			
評価の視点	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 2px;">評価記入欄</th> </tr> </thead> </table>			評価記入欄
評価記入欄				
【事業目的・目標の設定について】				
① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ適切なものであったか。				
【事業プロセスについて】				
① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。				
② 参画が可能となる事業内容・手法となるか。				
③ 参画を支障する体制・職員のはたらきかけがあるか。				
【事業成果について】				
① 事業の目的・目標が果たされているか。				
② 期待した事業効果が生じたか。				
③ 社会的波及効果が期待できるか。				

*それぞれ箇条書きで記載してください。その際、評価できる点については「○」を、改善に向けた提案の場合は「△」を冒頭に付けてください。
上記項目に該当しない事項について記入ください。

黒松市民センター

市民企画会議「女性のための講座企画会」事業計画概要書

「市民センターの施設理念と運営方針」の地区館の役割の（1）地域住民本位の生涯学習拠点機能〔市民参画の推進と市民活動の育成・支援〕（2）地域の交流・拠点機能〔地域住民の交流の場の確保〕を踏まえて、黒松市民センターの事業実施方針として、「市民自ら企画し実施することにより、地域で主体的に活動する人づくりに繋げる」「様々な世代の地域住民が気軽に集い、交流できる場を設ける」を掲げ、この事業を企画している。

<事業（講座）の背景と目的>

黒松・八乙女地区では、震災時に子ども会育成会の母親を中心とした女性たちのネットワークがとても助けになった。現在でも女性たちは地域活動の主要な担い手であり、地域と学校との橋渡しや、男性たちを様々な活動の場に呼び込むなど、地域を盛り上げる大きな力となっている。

この事業は地域の女性たちが交流を深めながら、地域の課題を掘り下げ、ニーズに合った講座を企画運営することで、女性たちのネットワークづくりを促進することを目的とする。

(地域で活躍している団体の特色)

①黒松校区子ども会育成会

- ・30代～40代の女性が中心、男性もいる。
- ・黒松小学校が開校（1969年、昭和44年）する前の1965年（昭和40年）に発足し地域で子ども達を育てるために活動をしている。
- ・自分の子供が小学校を卒業しても、地域の子どものために活動している女性が多い。
- ・この長い歴史があったことで、平成23年の東日本大震災時には、小学校の避難所運営で大きな力となった。

②黒松婦人の会

- ・黒松地区の70代の女性を中心（会員数約50名）にして、住みやすい住環境整備のために活動している。
- ・資源回収、花壇整備（地下鉄黒松駅前、黒松保育所隣接の歩道沿い）を始め講演会、会員親睦のための旅行会など幅広い活動を行っている。
- ・地域行事への支援・協力（黒松夏まつり、黒松学区民運動会、商工会花見など）も積極的に行っている。

③子育て支援クラブ

- ・70代の女性を中心としたグループと30代～40代のママさんを中心としたグループの2つがある。
- ・活動拠点は、黒松児童館である。

④黒松小学校放課後子ども教室「わいわいパーク黒松」

- ・平成17年（2005年）開設、地域のママさんがスタッフとして運営。
- ・地域の子どもを見守り育てるボランティア活動
- ・活動拠点は、黒松小学校わいわいルーム、校庭ほか
- ・保護者が就労などにより家庭にいない児童（1年生～3年生対象の登録制）と全校児童対象（自由来館）がある。

<事業（講座）の主な内容>

①昨年度の話し合いでた現状と課題

- ・地域（黒松地区、旭丘堤地区、南光台地区）は、高齢化が進み子どもが少ない。
- ・高齢化が進んでいるために、環境整備などの地域活動の担い手の世代交代が求められている。また、家に引きこもっている高齢者（特に、一人暮らし）をどうやって外に引っ張り出すか。
- ・子育てについては、防犯や虐待などの面から意見がでた。
- ・女性問題については、社会問題ともなっている虐待に対応する女性のためのかけこみ寺のようなシェルターが必要ではないか。
- ・気軽に入れるような場所、集える場所があるとよい。

②オリエンテーション・企画検討

- ・地域の現状は？（年齢構成や家庭環境など地域の特徴を共有する）
- ・昨年度の結果を分析・反省し、今年度の方向性を共有する。

③講座実施（3回）

- ・対象とする年代は、50代と60代
- ・地域各種団体の現状とこれからの5年後、10年後を見据えて課題を解決するには、空白となっている50代を中心に「自分たちで」の意識醸成を育むことが必要である。

④反省会

<期待する事業効果>

黒松市民センター管内は、高齢化の進む黒松地区、南光台地区（4～6丁目）、旭丘堤と若い世帯が多い八乙女地区に大きく分かれる。世代が大きく異なれば地域ニーズや課題も違ってくる。この講座で女性たちが地域課題に向き合い解決する講座を企画運営することを通して、従来男性中心で行ってきた地域活動に女性の視点をいれ、自主的に地域活動に参画できるような市民力の向上とネットワークの充実が図れる。

そこから、更に大きな地域課題に対して行政機関や市民センターと連携した市民協働の事業が計画、実行できる基盤が構築できる。

<開催時期>

平成28年6月～12月

<対象>

地域住民（成人女性）

<昨年度（平成27年度）の実施状況>

「市民企画会議 女性のための講座企画会」全7回実施
(企画会3回、市民企画講座の開催3回、反省会1回)

昨年は7名の方が企画員に応募し、出席率も良く企画員同士の交流も深まった。また市民企画講座に参加した方々からも、女性の企画会に対するニーズの高さが感じられる。

フラダンス、はらこ飯作り、フラワーアレンジと、女性が楽しく学べる講座を企画・実施している。

平成27年11月11日(水)~12月9日(水)実施

《講座レポート》

～市民企画講座～

ほほえみサロン あ・ら・か・る・と

高齢化により、地域には夫婦や単身女性のシニア世帯が増えています。そうした中で、地域と交流の少ない単身の方や、介護などで引きこもりがちな女性が多く見受けられるようになってきました。

そこで、本講座は、女性たちが気軽に集える学習の場を設けることにより、地域の女性たちの交流を促進することを目的として開催しました。

*この講座は、「女性のための講座企画会」の市民企画員が企画・運営しました。

*会場は、黒松市民センター【全3回】

地域にひろがる 黒松市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-234-5346

■受付時間 9:00~21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)
公益財団法人仙台ひと・まち交流財團



第1回 ■実技「フラダンス」 11/11(水) 10:00~11:30

講師: フラスタジオ Mana 尾形 かれい氏

講師の模範演技を鑑賞するとともに、実技では上半身と下半身の振り付けをひとつずつ覚えながら、全員でフランダンスを1曲踊りました。実技の後には、市民企画員を交えてのお茶飲みタイムで交流を深めました。
(参加人数: 女性 17人)

■参加者の感想

親の介護等をしていますので、あまり時間がなく予定も立てられないでの、気軽に参加出来ることが何より楽しく過ごさせていただきました。とても楽しかったです。／脳トレになりました。



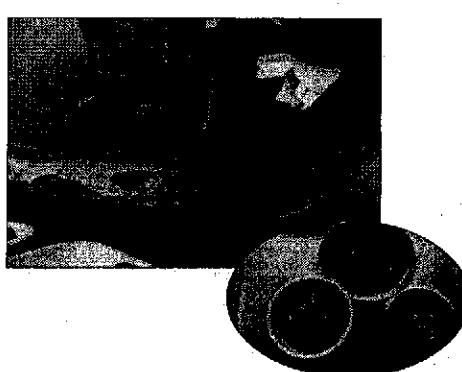
第2回 ■調理実習「旬のお魚を使った料理」 11/25(水) 10:00~13:00

講師: 「和」俱乐部 高橋 二義氏・仙台あさかな普及協会

講師が鮭を丸ごと1匹捌いてみせるところから始まり、はらこ飯、生鮭の薄切りサラダ、あさりの味噌汁の3品を作りました。
(参加人数: 女性 18人)

■参加者の感想

皆さんとわいわいにぎやかに楽しいひとときでした。／初めて参加しました。魚のさばき方が勉強になりました。とてもおいしくいただきました。自分で作ってみたいと思います。／皆で協力して出来る事だと感じました。



第3回 ■実技「クリスマスのフラワーアレンジメント」 12/9(水) 10:00~11:30

講師: 株式会社アジアナーセリー 大宮 英人氏

可愛いサンタの飾りがついた、クリスマスのフラワーアレンジメントを作りました。実技の後のお茶のみタイムは、最終回ということで、顔見知りの方が増えたせいか、賑やかに盛り上がりました。
(参加人数: 女性 18人)

■参加者の感想

とても楽しく参加させていただき、楽しい講座でした。／高齢者にとってとてもうれしい行事です。



「富沢アクティブエイジングサロン」事業計画概要書

「市民センターの施設理念と運営方針」の地区館の役割の（1）地域住民本位の生涯学習拠点機能〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕、（3）地域のコミュニティづくり機能の〔地域活動を担う人材の育成〕を踏まえて富沢市民センターの事業実施方針として「地域の喫緊の課題である地域の人材の発掘・育成事業に注力する」を掲げ、この事業を企画している。

＜事業（講座）の背景と目的＞

平成25年度より、複数年事業として、地域のシニア世代の交流、地域リーダーとなる人材の発掘・育成を目的に本事業を実施してきた。シニア世代が気軽に集まれるサロンを開催するために、企画運営に関する様々なスキルを学ぶ場を提供し、平成27年度は実際にサロンを開催した。今年度は「人とのつながりながらまちをつくる」コミュニティデザインを意識し、地域団体との連携を視野に入れた企画を考え実施しながら、地域に貢献する活動を行う人材育成を目指す。

＜事業（講座）の主な内容＞

① 今年度の目標「前年度に学習したスキルを更に深化させる」

運営員が地域に戻って地域リーダーとして地域を活性化するために活躍することを想定しつつ（コミュニティデザイン）、講座を自ら企画運営する。市民センターは、この中で運営員が活躍するまでの離陸期間において相談や助力を行うプラットホームとしての役割を果たしていく。

② 年間計画の策定および講座の開催

運営員が自ら企画会議を開き、講師、費用、スケジュール調整等の準備を進めて講座を実施する。運営員各々が担当を変えながら、概ね月一回のペースで実施する。

・「誰でもできる簡単ヨガ」「歌声喫茶」「調理ハット汁」「館外学習」他

③ 運営員の研修および地域団体との交流

今年度は運営員だけで実施研修（OJT）を兼ねて館外学習を実施したり、地元の農業団体や市民センターまつりに参加することで地域の各団体との交流も図る予定である。

④ 講座の反省、次年度への課題の話し合い

今年度の活動を総括し、地域リーダーとして自立するために必要な課題等を運営員間で話し合う。市民センターは後方支援の役割を認識しつつ適切な助言を行う。

＜期待する事業効果＞

・地域リーダーとしての技（わざ）の修得

自ら講座を実践することにより、地域リーダーとしての、調査および情報収集方法、企画、広報、人を巻き込むコーディネートの力をつけられる。

・市民センターで定期的に開催する講座の企画運営を通してメンバー同士が情報交換しながら、地域コミュニティについて学び、次の行動を起こすきっかけとなる。

＜開催時期＞

平成28年5月～平成29年2月

＜予定対象＞

地域住民（シニア世代）

<昨年度までの（平成 25, 26, 27 年度）の実施状況>

①平成 25 年度 「地域シニアの交流」、参加者 21 名

楽しみながら、人との交流や地域での繋がりを学び、地域の中で魅力的な生き方のきっかけ作りをする。初年度なので、まずは、運営員の関係作りを主眼とする。
・「宮城検定を媒介とした交流会」「メイドイン富沢の野菜で調理」等

② 平成 26 年度 「運営員が市民センターと一緒に講座の企画運営」 参加者 15 名

市民センターが音頭をとり、運営員が実施したいこと、得意なこと（運動系、料理系、学びー講座、学びー体験等）で講座を企画実行する。運営員に講座の流れ、ポイントを学んでもらう。

・「ジャズ鑑賞会」「大人のスポーツ」「私の趣味発表会」等

③平成 27 年度 「運営員が前面に立って講座の P.D.C.A 」 参加者 12 名

運営員が自ら企画会議を開き、地元講師、広報、スケジュール等の準備調整を進めて、講座を実施する。市民センターは原則として後方支援とする。

・「ニュー・スポーツ」「食育講話」「歌の会」「地域探索」等（別紙参照）

講座レポート

市民企画講座

富沢アクティブライジングサロン

平成25年5月11日～平成25年10月12日(全6回)実施

富沢は太古の昔より人びとの集うところ…

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

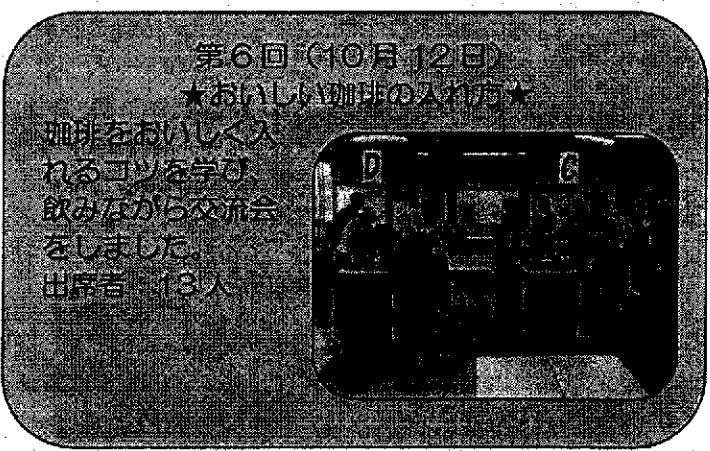
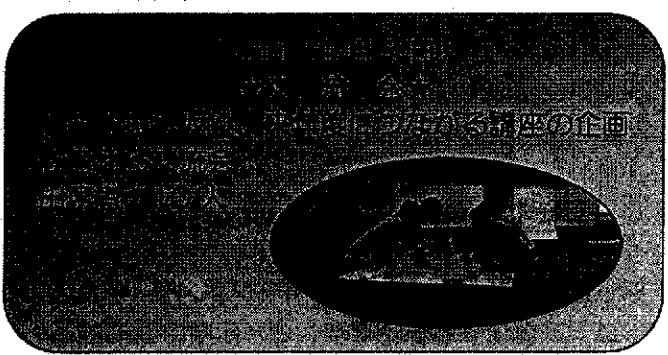
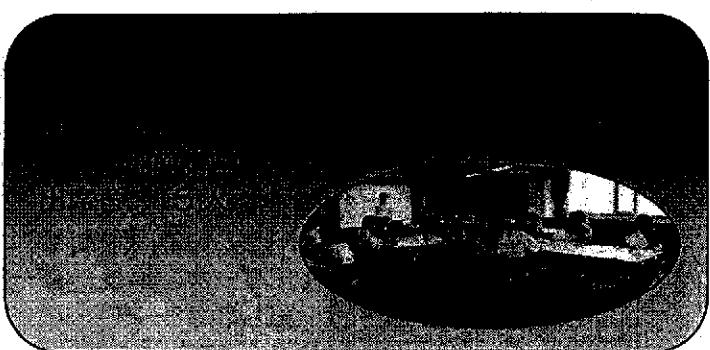
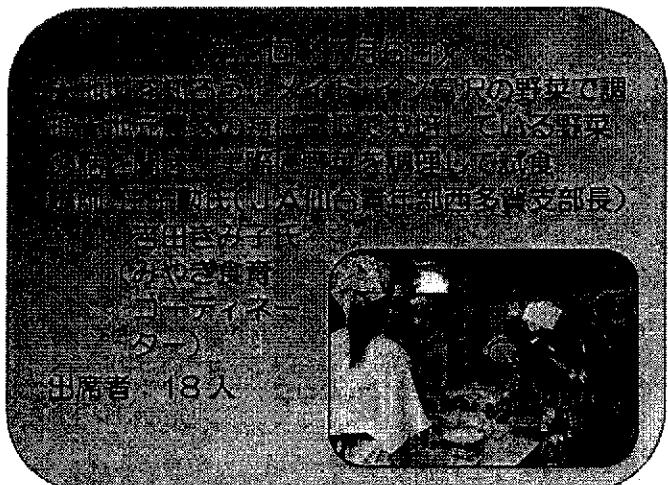
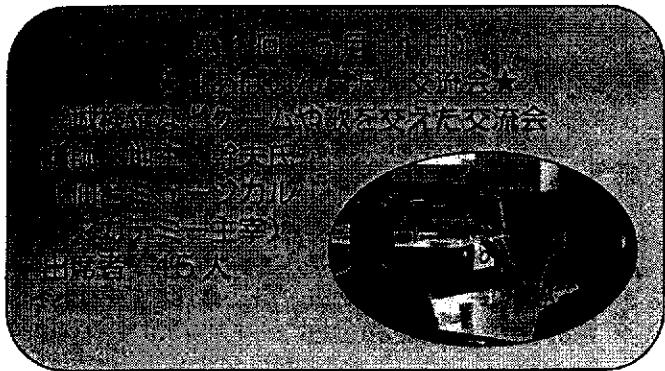
■受付時間 9:00～21:00

●休憩日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

(定正管理者：山田町教育委員会長)

公民館担当人：山古ひこ まち文化課

富沢アクティブライジングサロンは、地域活動や社会貢献を考えているシニア世代が交流や学びを通して、地域で生きるきっかけ作りを体験する講座です。受講生は21人、企画・運営委員を中心に交流の輪がひろがりました。



受講生の感想～1年間を振り返って～

- ・せっかく顔見知りになれたのに、あと2回では淋しいです。やっていただきたい（できればお手伝いもしたい）こともあります。
- ・毎回、何かを学ぶことができて楽しかったです。
- ・月一回、地域の方々と交流できるのはとても楽しみでした。来年度も講座が開催されるなら、ぜひ、参加してみたいと思います。

講座は6回で終了しましたが、受講生同士の交流が進み、これから月1回程度、市民センターに集まり、お茶っこサロンを自主的に開くことになりました。

平成 26 年 8 月～12 月実施

富沢アクトイフエイジングサロン

～青年シニア、ワクワク遊ぼう～

富沢は太古の昔より人びとの集うところ…

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者（仙台市教育委員会指定）
公益財団法人仙台ひと・まち交流視察団



知的好奇心が旺盛で多趣味、元気で活動的な「青年シニア」世代が、楽しいこと、ワクワクすることをしながら、自分らしい社会参加のきっかけを見つけることを目指し、8月から12月まで毎月1回、土曜日の15時～17時に、5回連続で講座を開催しました。

1回目
8/9

始まりの会～ジャズを聴きながら



地域にお住まいの若手演奏家による軽快なジャズの演奏が響く中、第1回目の講座が始まりました。講座の参加者は、50代～70代の男女15人（男性5人・女性10人）です。生演奏を堪能した後、自己紹介とこれまでの予定を確認しました。

2回目
9/20

ニュースポーツでコミュニケーション



4チームの対抗戦で、「フロアカーリング」という新しいゲームに挑戦しました。賞品もあるということで、夢中になってゲームを進め、一喜一憂しながら、お互いの距離が縮みました。

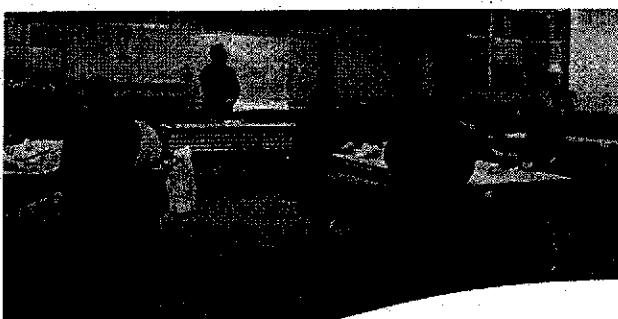
3回目
10/25

食べて知る富沢の味



富沢で栽培されている野菜を使って、エコクッキング。みんなで楽しく料理して、バイキング形式で食べながら、会話も弾みました。

富沢！
ここが一番お気に入り



新たなステージへの出発点

この講座は、複数年事業で、今年度は2年目です。1～3回目は、受講生同士のコミュニケーションを図りながら企画の面白さを体験してもらい、4・5回目は、各自興味があるものや好きなことを話題にしながら、自分たちがサロンを開くとしたらどんなものがいいのか、具体的に話し合いました。来年度は、この話し合いを基に実際にサロンを開催する予定です。どんなサロンになるか、楽しみにしていてください。

<参加者の感想>

・楽しいこと、ワクワクすることをさらに皆さんと経験していきたいと思っています。・転勤族にとっては富沢を知る上でも心強いサロンで、いつも楽しみにしています。・仲間意識が出てきたので、一回一回の参加が楽しみだ。・色々と勉強になったし、他の人の交流が楽しみ。

<これからやってみたいこと>

・富沢を歩く・音楽を楽しむ・富沢地区のマップ作り・散歩やウォーキング・体操・自分史等

平成27年5月～28年1月実施

富沢は太古の昔より人びとの集うところ…

富沢アクティブエイジングサロン

～サロンを開こう～

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

●受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者（仙台市教育委員会指定）
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団

「富沢アクティブエイジングサロン」は、地域のシニア世代が気軽に集まれる場づくりのために、12人の運営委員が話し合いを重ね、講座を企画し、開催しました。

癒しのオカリナコンサート

6/20
(土)

第1回目となる6月は「オカリナコンサート」です。オカリナの澄んだ音色が流れる中、演奏者の高橋佐知子さんからは、オカリナの新しい魅力や「ヴィオリラ」という新しい楽器も紹介してもらいながら、癒しの時間を過ごしました。

ニュースポーツを体験しよう！

2回目は、ニュースポーツの「ディスコン」を体験しました。ニュースポーツというとどんなものかわからない方が多いようですが、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「すぐに」参加できる新しい競技のことです。いろいろな種類がありますが、今回体験した「ディスコン」は、赤と青の2チームに分かれて、CDに似た円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツです。

単純なだけに、すぐにコツをつかめ、年齢や各自の体力、もちろん運動神経にも関係なく、白熱したゲームになります。暑い時期での開催でしたが、進行した運営委員がおなじみのラジオ体操を京都弁で行うなど工夫し、ゲームに参加した方々は、和気あいあいと楽しく競技を進め、心地よい汗をかきました。

歌で伝える～食べ方上手は生き方上手

8/22
(土)

地域の方々が気軽に集まれる「富沢アクティブエイジングサロン」、8月は♪食育コンサート♪を開催しました。

「おなかに脂肪がついてきた！疲れやすくなった…」と感じている年代の皆さんのが、管理栄養士の飯渕由美さんから、体にちょうどいいものを食べて、賢く年を重ねる「ナイスエイジング」のお話を聞きました。その後は、歌で「食育」の大切さを伝えているリバースファイブの皆さんの楽しい歌とパフォーマンス、和やかな雰囲気の中で改めて「食」の大切さを学びました。

地域散策～仙台市電保存館見学～

地域をみんなで歩きたいという企画を考えましたが、実現するのは多くの課題が見つかりました。受講生を集めて実施するにはまだまだ不安があるので、今回は内部研修としました。

目的地は、市民センターから歩いて10分ほどのところにある「仙台市電保存館」に決まりました。担当者は、保存館と連絡を取ったり、道順を確かめたり、雨天の時を考えたりしました。当日は、車いすの方の参加想定し、実施しました。運営委員は、それぞれに、多くのことを学びました。

貴重な経験になりました。



メイド イン made in 富沢の野菜で調理

11月は、地元の野菜を使った料理を作る講座です。教えてくださるのは地元農家おばさん「若草会」の皆さん。富沢で採れた野菜を主に使い、メニューも豊富に、いろいろ教えていただきました。

和気あいあいと作業を進め、みんなで協力して出来上がった料理はどれも大変おいしく、笑顔でいただきました。地元農家の方のお話も聞き、地産地消の大切さを学びました。



1月は、「みんなで声を出して歌いましょう」という講座を開催しました。

初めに、「トーニング」という声だしをしました。まだ緊張している様子の参加者。まずは、司会者のリードで季節の歌を歌いました。小林康浩さんのピアノ伴奏に合わせて歌うとなかなかいい感じです。



その後は、参加者からリクエストをしてもらい、会場は歌声に包まれました。途中「ジージーズ」という男声合唱団の歌声披露もあり、和やかに会は進みました。「楽しかった」「声を出すのは久しぶり」「また参加したい」との声をいただき、会場に集まった約50人の参加者は笑顔で会場を後にしました。